（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	かどるあっぷ			
○保護者評価実施期間	令和8年　1月　21日	～	令和8年　2月　2日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	29名	（回答者数）	23名
○従業者評価実施期間	令和8年　2月　9日	～	R8年　2月　13日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	16名	（回答者数）	15名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年　3月　16日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員間のコミュニケーション	日ごろから利用者の状況を伝え合い、利用者の健康面や発達の状況について職員間で共通理解ができている。 毎日の打ち合わせ、申し送りノート等の連絡手段で、職員間の意思の疎通が図れるようにしている。	今後も職員間のコミュニケーションを充実し、質の高い支援につなげていきたい。
2	個別支援の充実	利用者を十分に理解し、特性に応じた専門性のある支援を行っている。さらに、支援者の対応のブレをなくすため、支援方法の統一を図っている。 支援計画に基づき、スモールステップを大切にしながら、その時々の段階に応じた支援を行っている。また、その日の利用者のその日の体調や情緒面に配慮しながら支援を行うことを大切にしている。	家庭や学校と情報を共有し、共通の目標を設定することで、支援内容の一貫性をめざす。
3	関係機関、保護者との連携	母体である法人は、障がい児者の親の会であり、研修会やイベント等の開催で地域に根差した活動をしている。それらの経験や実績を生かし、障がいのある方の権利擁護に力を入れ、保護者の方からの相談に親身にのっている。	これからも障がいのある方の権利擁護に努め、地域に根差した事業運営を行うことで、支え合う関係づくりに力を入れていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族支援	支援計画の面談以外も、子育てなどに対する助言を行っているが、プログラムとしてのペアレントトレーニングは、行っていない。	親の会が持つ情報を積極的に発信していく。 みんなが集まれるような茶話会等の企画を立て、保護者同士の交流ができるような機会を作っていく。
2	情報発信	事業所の取り組み（安全管理、避難訓練、苦情対応等）についての情報が少なかった。毎月のお便りでお知らせしていたが、伝わっていなかった。	SNSやホームページを活用することで、より多くの人に知ってもらい利用しやすい事業所となることを目指す。
3			